

## 処理施設の維持管理に関する計画（焼却施設）

受け入れる産業廃棄物の性状の分析の方法	サンプルを採取し検査課において分析する。
受け入れる産業廃棄物の計量の方法	トラックスケールにて計量する。
施設への産業廃棄物の投入量の管理の方法	トラックスケールにて計量し、投入量を記録する。
産業廃棄物の流出等の異常時の対応の方法	異常時にはマニュアルに従い施設を停止して回収等の措置を行う。また、速やかに関係先への連絡を行う。
施設の定期点検及び機能検査の方法	基本的に24時間稼働であり、異常発生時には直ちに整備を行うが、定期点検は1回/年の予定で定期修理時に実施する。
飛散の防止方法	ばいじん、汚泥・金属くずを搬入するトラックは荷台にカバーをかけて荷下ろしは建家内で行い、粉じん飛散を防止する。
害虫発生の防止方法 構内の清潔保持方法	1回/月スイーパーによる道路掃除を行う。
排水処理施設の点検方法	1回/日担当者による日常点検を行う。
定期的な水質検査の方法	採水場所・・・碓氷川放流口 採水頻度・・・1回/週 1回/7日測定・・・PH、Cd、Pb、Zn、Cu、As、溶解Mn、SS 1回/28日測定・・・THg、溶解Fe、CN
維持管理に関する点検、検査等の記録の保存方法及び保存期間	点検・検査等の記録は、専用用紙に記入してファイリングする。保存期間は5年間とする。
定期的な水質検査の方法	採水場所・・・碓氷川放流口 採水頻度・・・1回/週 1回/7日測定・・・PH、Cd、Pb、Zn、Cu、As、溶解Mn、SS 1回/28日測定・・・THg、溶解Fe、CN
外気と遮断した状態で 定量ずつ連続的な投入方法	オアブッシャー方式
燃焼ガスを800度以上に 保つ方法	流動焙焼炉は亜鉛精鉱を焙焼するため900℃以上を保つ。
運転開始時に、炉温を 速やかに上昇させる方法	24時間稼働のため常時炉温は適度であるが、定修後のスタート時は重油を使用して適温まで加熱する。
運転停止時、炉温を高温に 保ち燃焼し尽くす方法	焙焼炉内の亜鉛焼鉱を全量次の回収工程へ送り、焙焼炉内を空にした後に停止する。

排ガス処理設備、冷却設備のばいじんの除去方法	亜鉛焼鉱は廃熱ボイラー、サイクロン、ダストコットレルで回収されるが、こくわずかに残った亜鉛焼鉱はミストコットレルで集じんされる。
排ガス処理設備の維持管理方法(消耗品の交換時期等)	基本的に24時間稼働であり、異常発生時には直ちに整備を行うが、定期点検は1回/年の予定で定期修理時に実施する。
排ガス中のCO濃度の連続的測定記録方法	CO濃度計により測定し、レコーダーで記録する。
排ガス中のガス類濃度を一定以下にする焼却方法	流動焙焼炉は亜鉛精鉱を焙焼するため900℃以上を保ち、発生するSO <sub>2</sub> ガスのためガス類濃度は規制値以下である。
排ガス中のガス類濃度(年1回以上)、ばい煙濃度等(6月に1回以上)の測定記録方法	測定頻度・・・1回/3ヶ月 測定方法・・・測定業者に依頼
排ガスによる生活環境保全上の支障の防止方法	ダストコットレル、ミストコットレル、除害ミストコットレルにおいて排ガスを洗浄し、大気へ放出する。
ばいじんと焼却灰を分離して排出し貯留する方法	廃棄物は焼却後分離せず全て製錬原料として使用される。
火災防止措置方法及び消火設備の設置方法	化学消防車、消火ポンプ、消火栓、消火器を配置し、初期消火体制をとっている。
排ガス処理施設の点検方法	1回/日担当者による日常点検を行う。
定期的なばい煙検査の方法	1回/3ヶ月の頻度でばい煙を測定している。
ばい焼室の温度を600℃以上にした後の投入方法	オアブッシャー方式
ばい焼温度の管理方法	流動焙焼炉の計器室において集中管理する。